営農レポート
Niigata
令和５年４月１２日
発行：JA／JA全農にいがた

水稲の露地プール育苗の方法と注意点について

水稲の作付け規模拡大に伴い、パイプハウスの不足などにより、露地で育苗する生産者が増加しています。しかし、４月の気温の変動が大きいため、霜害にあったり、異常高温で苗ヤケを起こしたり、健苗を育成するには管理の要点をとらえておく必要があります。

そこで、管理上の注意点を含めて露地プール育苗の方法について、まとめました。

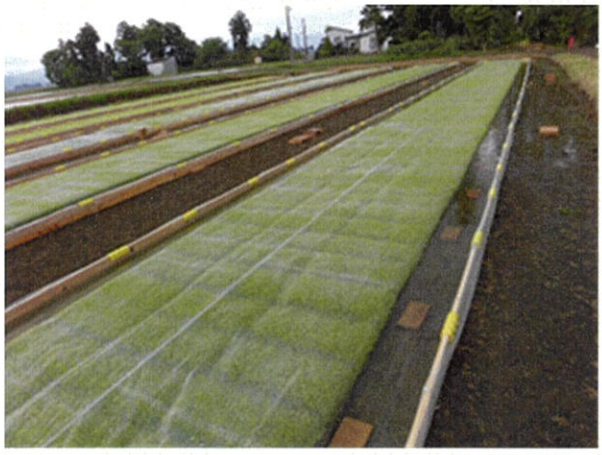

写真　　露地プール育苗のようす

１．設置場所

気温の変動による影響を減らすため、畑地または水田内でのプール育苗が基本となります。畑地は均平作業を行うこと、また水田では豪雨によって冠水しないように、明渠などの排水対策を実施します。

２．播種時期

４月上・中旬は気温の変動が大きく、低温による発芽不良や霜害に見舞われやすいので、４月下旬以降が播種適期です。ハウス育苗に比べて、気温の影響を大きく受けるため、育苗期間が長くなります。

３．播種量と徒長・老化対策

５月下旬以降に田植えする場合は、苗が徒長・老化しやすくなるため、播種量はできるだけ減らした方が健苗になります。また、１か月を超える育苗期間になる場合は、３葉以上になりますので、第１葉鞘長を伸ばさず、かつ追肥により老化しないよう管理します。

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。

4．被覆資材による保温方法

加温出芽の場合は、緑化までの短期間の被覆で十分ですが、無加温出芽する場合は、出芽・緑化まで長期間の被覆が必要となります。シルバーポリフィルム系や低発泡ポリエチレン系（ミラシートなど）の被覆資材では晴天高温時には苗ヤケのリスクがあります。一方、高温対策フィルム（本州太陽㊙シートなど）を用いれば、苗ヤケを防止できますが、曇天低温が続くと苗の生育が遅延します。そこで、高温対策フィルムを基本とし、曇天低温が続く場合にのみ、シルバーポリフィルム系を上掛けする方法があります。

被覆中に雨水が溜まると、天候回復後に太陽のレンズ効果で温度上昇するので、滞水は動力散布機等で吹き飛ばします。

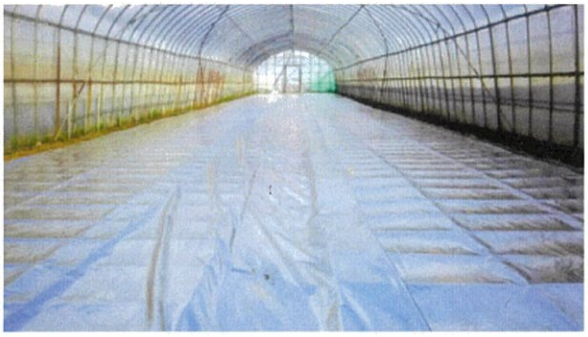

写真　**本州太陽®シート**

（詳しい情報は右の QR コードから）

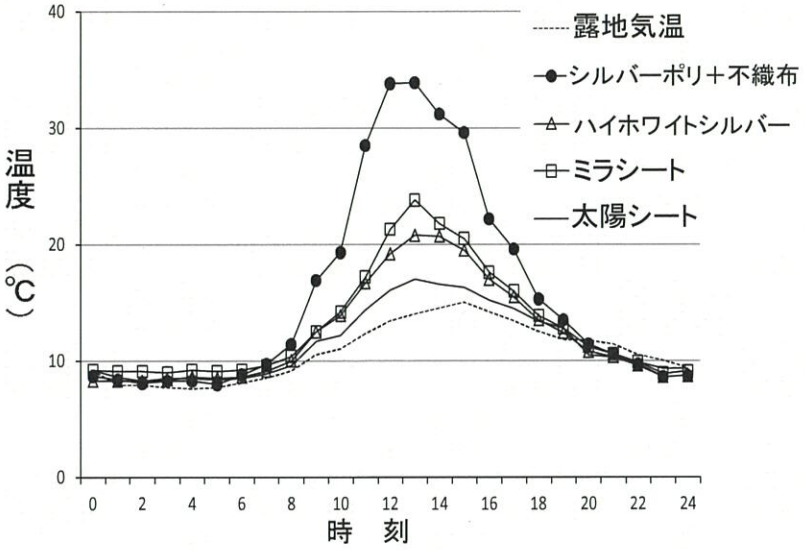

図　被覆資材下の１日の気温変化（４月 20 日）

5．湛水時期（プール育苗）

ハウス育苗と同様に加温出芽の場合は、緑化が終了し被覆資材の除覆以降に湛水します。

無加温出芽の場合では、種子根が育苗箱の底から抜けるのを確認したら除覆し湛水します。最も低い場所にあわせて、苗が水没しない程度の水深とします。苗の生育のバラツキが大きい場合は、生育の遅れている苗の葉齢が１葉に達するまでは、最も低い場所にある苗箱の 1/2 の深さに留め、生育の進展に合わせて通常のプール育苗管理に移行します。

6．防風・防鳥対策

プール用のシートや被覆資材は、強風に備えて枠に固定したり、重しをのせます。また、鳥害の懸念がある場合は、ネット状のポリエチレン不織布をべた掛けするか、防鳥網を設置します。

（担い手・営農支援部　担い手・営農支援課）

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。